

ウィークリー・アウトLOOK

重要なカギを握る米 CPI

【今週のポイント】

- ・米 CPI などを受けて、FRB の金融政策見通しはどうか変化するか
- ・英米株価が上昇すれば、米ドル/円や英ポンド/円に上昇圧力か
- ・豪経済指標で RBA の利上げ観測は後退するか

米ドル/円は3日発表の4月米雇用統計がやや弱めだったことで一時151円台まで下落しましたが、先週(5/6-)はジリジリと上昇し、155円台後半で週を終えました。本邦当局による為替介入に対する警戒感がある一方、日米金利差に照らせば米ドル/円は上昇するのが自然との見方が根強くありました。

一方、米ドルは円以外の通貨に対して軟調。雇用統計以降も、ISM非製造業指数やミシガン大学消費者信頼感指数、さらに新規失業保険申請件数などの米経済指標が総じて弱めとなり、FRBの利下げ観測が強まったためです。ただ、英ポンドはBOE(英中銀)の政策会合の結果がハト派的だった(※)との判断で対米ドルでも下落しました。

※金融政策の据え置きが決定されましたが、9人の委員のうち2人が利下げを支持。また、ベイリー総裁は記者会見で6月利下げに向けて前向きな発言をしました。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
5月14日	21:30	【米】PPI 前年比(4月)	2.2%	2.2%	2.1%
		【米】コアPPI 前年比(4月)	2.4%	2.4%	2.4%
5月15日	10:30	【豪】賃金コスト指数 前年比(1-3月期)	4.1%	4.2%	4.2%
	21:30	【米】CPI 前年比(4月)	3.4%	3.4%	3.5%
		【米】コアCPI 前年比(4月)	3.6%	3.6%	3.8%
	21:30	【米】小売売上高 前月比(4月)	0.4%	0.4%	0.7%
		【米】小売売上高(除自動車) 前月比(4月)	0.2%	0.2%	1.1%
21:30	【米】NY連銀製造業景気指数(5月)	-10.0	-10.0	-14.3	
5月16日	8:50	【日】GDP速報値 前期比年率(1-3月期)	-1.5%	-1.5%	0.4%
	10:30	【豪】失業率(4月)	3.9%	3.9%	3.8%
		【豪】雇用者数 前月比(4月)	1.90万人	2.00万人	-0.66万人
21:30	【米】フィラデルフィア連銀製造業景気指数(5月)	8.0	8.0	15.5	
5月17日	18:00	【ユーロ圏】CPI改定値 前年比(4月)	2.4%	2.4%	2.4%
		【ユーロ圏】コアCPI改定値 前年比(4月)	2.7%	2.7%	2.7%

市場予想はリフィニティブ、5月13日10:00現在。発表日時は日本時間。

今週(5/13-)はCPI(消費者物価指数)をはじめ、米経済指標が多く発表されます。それらを受けて市場の米金融政策見通しがどう変化するか、大いに注目でしょう。FRBの利下げ観測が後退して、米ドル/円が上値を追う展開となれば、本邦当局による為替介入にも注意する必要が出てきそうです。

先週はNYダウが上昇して3月に実現しなかった史上初の4万ドルをうかがう展開となっています。米株が上昇すれば、米ドル/円にも上昇圧力が加わるかもしれません。一方で、株価が上昇すれば、市場心理がリスクオンに傾いている証左であり、資源・新興国通貨にとってプラスに作用しそうです。

<西田>

豪ドル/米ドルやNZドル/米ドル、米ドル/カナダドルは、CPIなど米国の経済指標に大きく影響を受けそうです。米経済指標の結果を受けてFRBの利下げ観測が後退する場合、豪ドル/米ドルとNZドル/米ドルには下落圧力が、米ドル/カナダドルには上昇圧力が加わると考えられます。

豪ドル/円やNZドル/円などのクロス円は、米ドル/円の動向にも影響を受けます。米ドル/円が上昇を続ける場合、本邦当局の対応(米ドル売り・円買いの介入の有無)に注目です。

BOM(メキシコ中銀)は9日の会合で政策金利を11.00%に据え置きました。BOMはインフレ率見直しを修正し、メキシコのCPI(消費者物価指数)上昇率が目標の3%に近づく時期の見通しを3月時点の「25年4-6月期」から「25年10-12月期」へと2四半期後ズレさせました。BOMの追加利下げの時期も後ズレする可能性があり、そのことはメキシコペソにとってプラスと考えられます。

メキシコペソ/円については、他のクロス円と同様に米ドル/円が大きく下落するような状況にならなければ、上値を試す展開が想定されます。<八代>

今週の注目通貨ペア①: <米ドル/円 予想レンジ:152.000円~158.000円>

10日時点のOIS(翌日物金利スワップ)に基づけば、市場のメインシナリオ(確率5割超)は、「FRBは9月と12月に0.25%ずつの利下げ」です。ただし、9月までの利下げ確率は8割、12月までの追加利下げの確率は6割程度です。したがって、今後の材料次第では利下げ開始の観測が11月に後ズレしたり、年内の追加利下げがメインシナリオから外れたりする可能性があります。その場合は、米ドルにプラスに作用しそうです。

重要なカギを握るのが15日に発表される米国の4月CPIでしょう。CPIは3月まで3カ月連続で市場予想を上振れました。1日のFOMC声明文では「ここ数カ月、物価目標への進展が止まっている」との指摘がありました。4月CPIが市場予想を上回ったり、インフレの再加速を示唆する内容であったりすれば、FRBの利下げ観測が後退して米ドルを支援する可能性があります。

一方、先週末に明らかになった日銀4月会合の「主な意見」はタカ派的でした。日本の企業物価やGDP、鉱工業生産などの指標などを受けて、利上げ観測や長期国債買入れの減額予想が強まるならば、円の上昇要因となるかもしれません。<西田>

今週の注目通貨ペア②: <英ポンド/円 予想レンジ: 192.000 円~198.000 円>

欧州株が好調です。とりわけ、英国の FTSE100 は 23 年 2 月につけた史上最高値を今年 4 月下旬に更新してから上げ足を速めています。日本や米国の株価が IT 株にけん引されて今年の早い段階で最高値を更新していたのと比べて英国株の出遅れ感がありました。しかし、IT 株の勢いが鈍るなかで、エネルギー・金融・医薬品などを多く含む FTSE100 がキャッチアップしてきました。足もとの株価の上昇ピッチがやや速すぎる印象がありますが、株価の堅調が続くならば、英ポンド/円にも上昇圧力が加わりそうです。

注意すべきは、本邦当局による「円買い」介入でしょう。仮に、米ドル/円が上昇して 160 円に迫るような状況になれば、どこかで為替介入が入るかもしれません。その場合は、英ポンド/円のみならず、クロス円の通貨ペアは軒並み下落するとみられます。<西田>

今週の注目通貨ペア③: <豪ドル/NZドル 予想レンジ: 1.08500NZドル~1.10500NZドル>

7 日の RBA(豪中銀)会合の結果を受けて豪ドル/NZドルは軟化しました。RBA の声明やブロック総裁の会見によって RBA の利上げ観測が後退したためです(豪ドルにとってマイナス)。

声明では、金融政策の先行きについて「何も決定しておらず、何も排除していない」と改めて表明されました。豪州の 1-3 月期の CPI(消費者物価指数)が市場予想を上回る結果だったことで市場では RBA は利上げバイアスを復活させるとの観測がありましたが、前回 3 月の会合の時と同じでした。ブロック総裁は会合後の会見で、「インフレ率を目標に戻すうえで、(現在の政策)金利は適切な水準だ」と指摘。「必ずしも再び引き締め(追加利上げ)が必要になるとは考えていない」と述べました。

今週は、豪州の賃金コスト指数(1-3 月期分。15 日)や雇用統計(4 月分。16 日)が発表されます。それらが弱い結果になれば、RBA の利上げ観測は一段と後退する可能性があります。その場合、豪ドル/NZドルは一段と上値が重くなりそうです。<八代>

今週の注目通貨ペア④: <米ドル/カナダドル 予想レンジ: 1.35000 カナダドル~1.38500 カナダドル>

今週はカナダの 3 月卸売売上高や 4 月住宅着工件数などが発表されますが、材料としては力不足の感があります。米ドル/カナダドルは、米国の 4 月 CPI などの米ドルサイドの材料に反応しやすい地合いになりそうです。CPI などの結果を受けて FRB の利下げ観測が後退する場合、米ドルが堅調に推移して、米ドル/カナダドルには上昇圧力が加わりやすくなると考えられます。

原油価格の代表的な指標である米 WTI 原油先物は 8 日、一時 1 バレル=76.89ドルへと下落。中心限月のザラ場ベースとしては、3 月 11 日以来およそ 2 カ月ぶりの安値をつけました。原油価格が下落を続ける場合、材料になるかもしれません。原油安はカナダドルにとってマイナス(米ドル/カナダドルの上昇要因)になると考えられます。<八代>

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘 (にしだ あきひろ)

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也 (やしろ かずや)

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
